

騎馬鷹狩文化の起源をもとめて ～アルタイ山脈に暮らすカザフ遊牧民と鷹匠の民族誌～

相馬 拓也

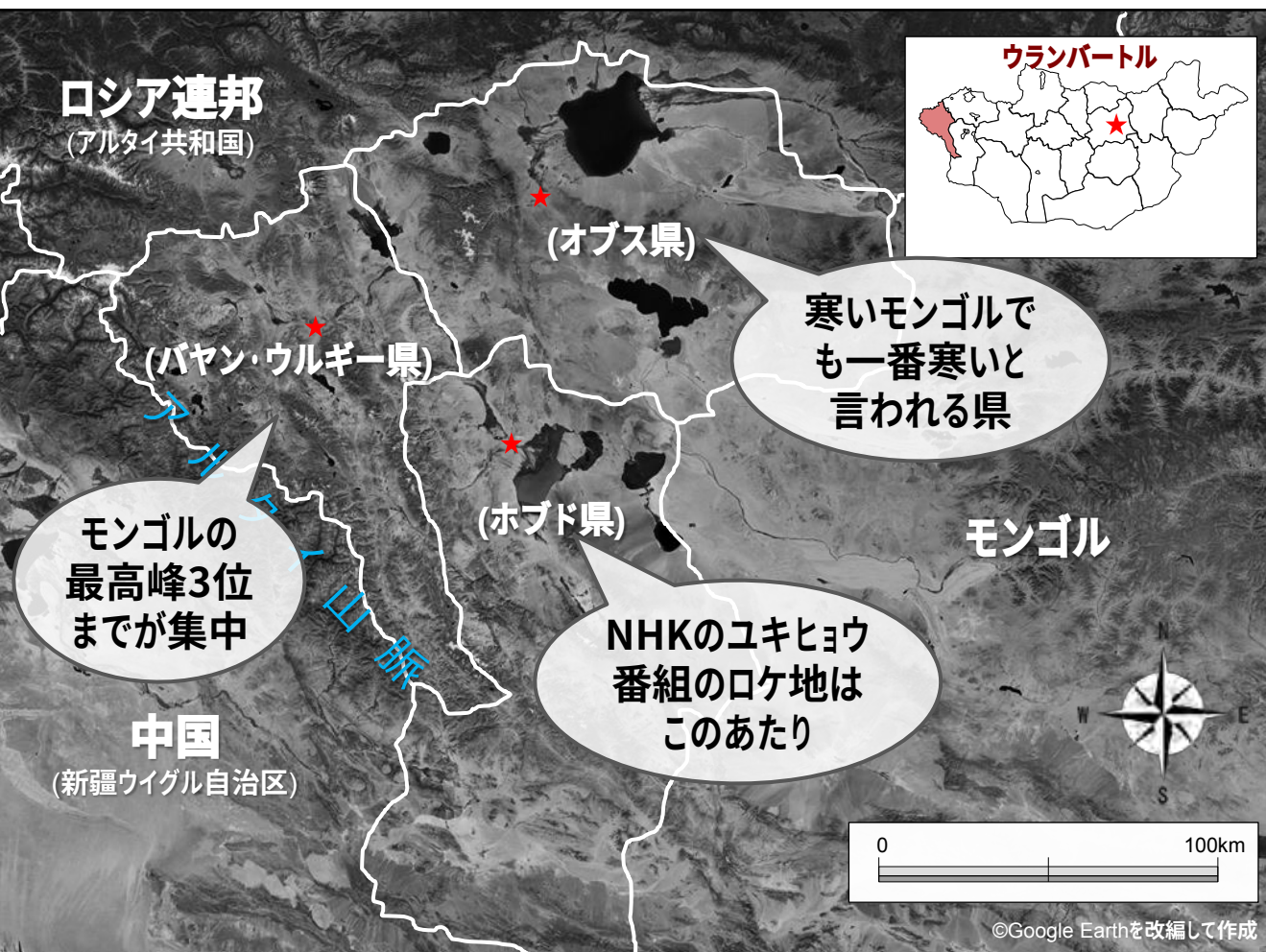
ヒマラヤ保全協会 (IHC) 理事／学術顧問
早稲田大学 高等研究所 助教 (2016年度～)





- I. はじめに: フィールドワークの修辞術**
Fieldwork in the Nomadic Animal Herder's Community
- II. アジア鷹狩文化の最古層**
Proto-Culture of Human-Raptor Interactions
- III. カザフ鷹使いたちの民族誌**
Ethnography of Altaic Kazakh Eagle Masters
- IV. 「ヒトと動物の調和遺産」に向けて**
Sustainability of Eagle Falconry

調査地モンゴル西部地域の概要



	オブス県	ホブド県	バヤン・ウルギー県
県域:	69,585km ²	76,100km ²	45,704km ²
近似面積:	アイルランド	チェコ	スイス
設立年:		1940年より	
人口:	約77,184人 (2008年)	約76,869人 (2010年)	約93,017人 (2009年)
人口密度:	約1.36 人/km ²	(東京都: 14,389人/km ²) (日野市: 6,647人/km ²)	
エスニック・グループ:	ドゥルブド バヤド ハルハ ホトン カザフ ウリアンハイ トゥバ	ホトン カザフ ウリアンハイ ザフチン ミャンガド オールド トルグート	90%以上が カザフ人

ロシア
(アルタイ共和国)

A.ツォグツ村
NHKドキュメンタリー番組
『地球イチバン』のロケ地

ウランフス

A. ツォグツ

サグサイ

ウルギー市

サグサイ村

合計400日間程度を鷹匠
一家とともに暮らす

トルボ

アルタイ

ウランバートル

モンゴル
(ホブド県)

中国
(新疆ウイグル自治区)

0 100km

©Google Earthを一部改編して作成

サグサイ村と隣接冬营地

ウルギー市

ウランフス村

ホブド河

アグジャル山地

(約30km)

ブテウ

(約8km)

ウジユム

ブクン

調査地での
滞在先

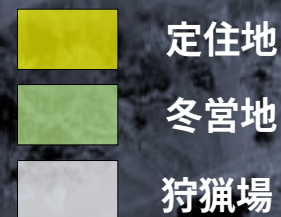
サグサイ村
(ソム・センター)

オルタタウ

コガラ・トバ山地

カラ・ユロク山地

カグルガト



©Google Earthを一部改編して作成

アルタイ村



鷲使い 89歳







鷲使い 19歳

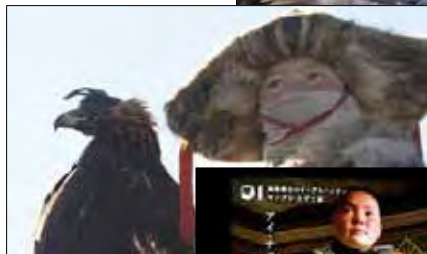
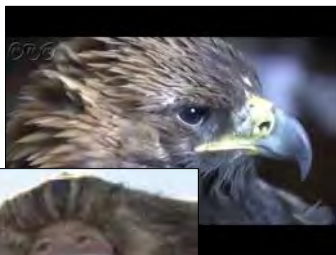
生活をともした若き鷹匠



鷲使い 14歳

NHK『地球イチバン：地球最古のイーグルハンター』
で取り上げられたガール鷹匠“アイちゃん”

▼NHK『地球イチバン』(2015年1月29日放送)



鷲使い



80歳



64歳



50歳



46歳

イヌワシ *Aquila chrysaetos daphanea*
世界最大級／最強クラスの猛禽



狩猟用のイヌワシ
他地域のイヌワシよりも
体格が10%程度おおきい



狩猟用のイヌワシ



狩猟用のイヌワシ
キツネなどの中型以上の四足獣を捕獲する



サグサイ村での騎馬鷹狩猟の風景



アルタイ屈指の景勝地（ダイン地方ヨルト）



アルタイに咲く高山性の花々



お世話になった遊牧民のみなさん



暮らしに息づくフォークロアの伝統



夏季の天幕での暮らし



夏季の夏牧場での暮らし



厳冬期の暮らし



厳冬期の暮らし



ともに暮らした動物たち





夏季

※注 イヌではなく
オオカミです
(食用となる)



危険をとも
なうイヌワシ
体尺測定



冬季

−40℃にも
なる山地での
野外調査



天逝した
愛馬

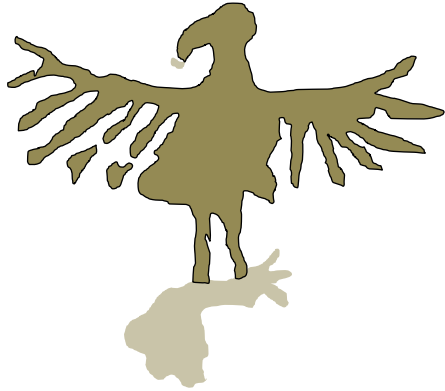


テーマ①

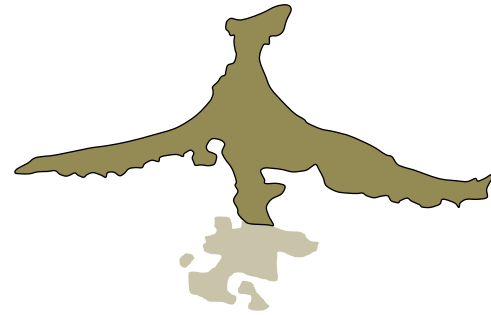
アジア鷹狩文化の最古層



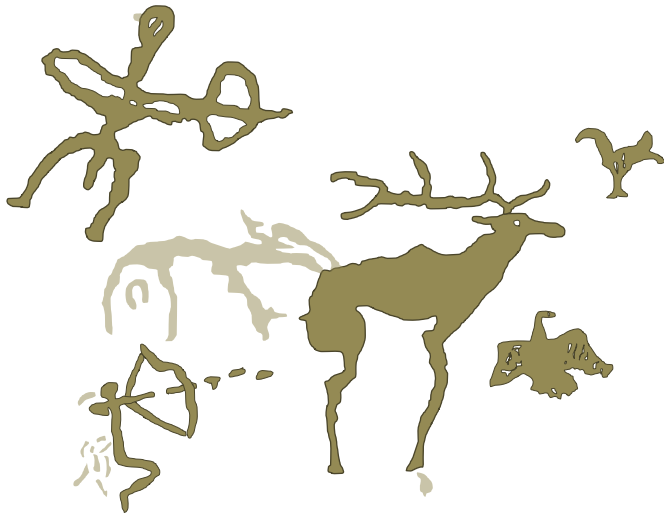
古代アジアの鷹狩図案①



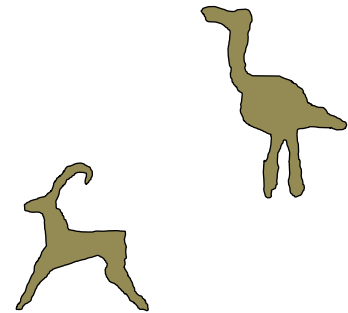
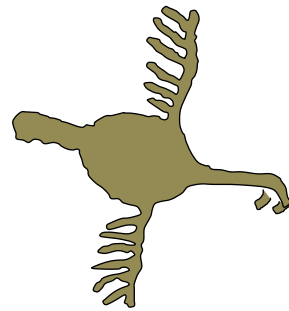
▲アルタイ北部岩画（アルタイ北部：紀元前10世紀頃）



▲アルタイ北部岩画（アルタイ北部：紀元前10世紀頃）



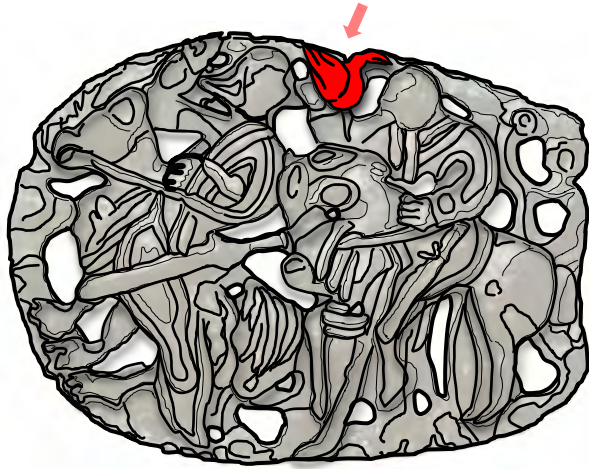
▲シベート・ハイルハン（モンゴル：紀元前10世紀頃）



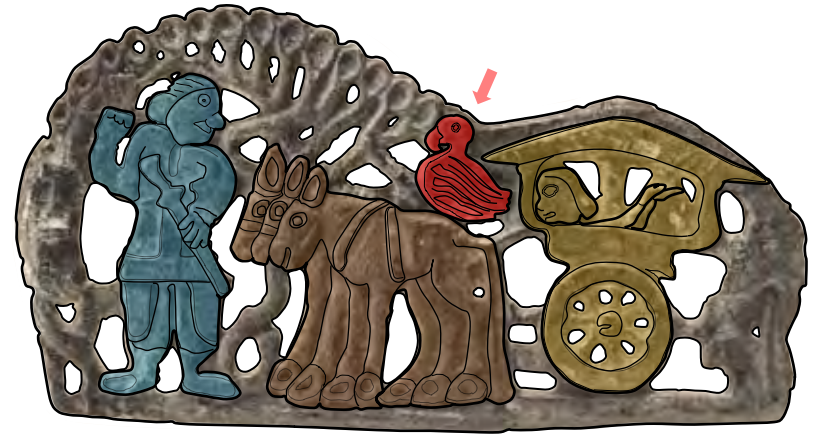
▲アルタイ北部岩画
（アルタイ北部：紀元前10世紀頃）



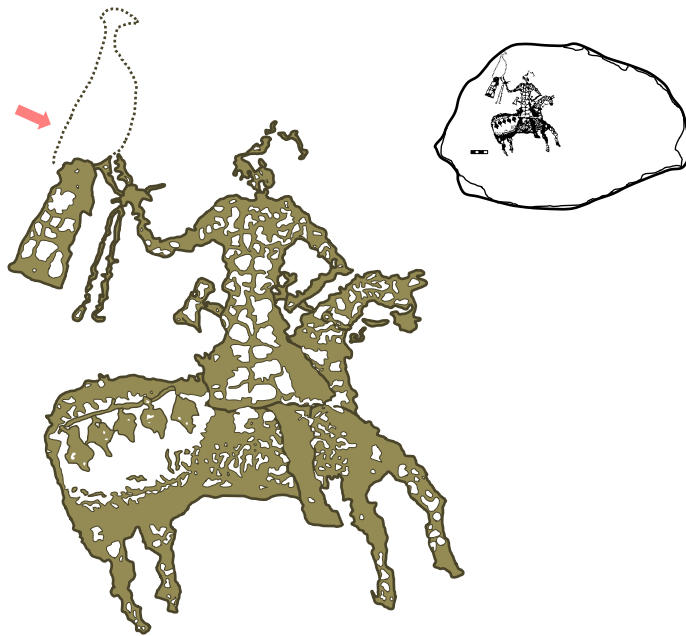
古代アジアの鷹狩図案②



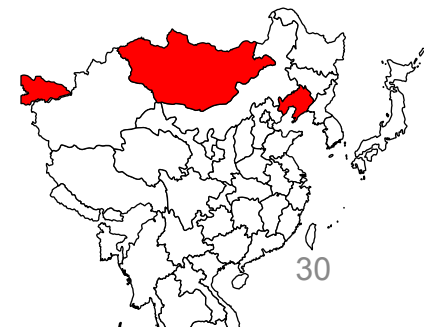
▲西岔溝古墓群古墓群（遼寧：紀元前3世紀頃）



▲南シベリアでの発見物（シベリア：紀元前1～2世紀頃）



▲コクサイ岩画遺跡（キルギス：7～8世紀頃）



古代アジアの鷹狩図案③ キルギス：ギョク・トゥルク時代



コクサイ岩画遺跡
(キルギス：7～8世紀頃)



コクサイ岩画遺跡
(キルギス：7～8世紀頃)



クズルブラク岩画遺跡
(キルギス：7～8世紀頃)



ビロクブラク岩画遺跡
(キルギス：7～8世紀頃)



テーマ②

カザフ鷲使いの民族誌について



Falconiformes/ Falconidae
ハヤブサ目ハヤブサ科

Accipitriformes/ Accipitridae
タカ目タカ科

Long-Winged

ハヤブサ (Сұңкар)

ペレグリン, セーカー, ラナーetc

Short-Winged

タカ (Қаршыға)

オオタカ, ハイタカ, チョウヒ, etc

遊牧社会でのみ飼養

ワシ (Бүркіт)

イヌワシ

セーカーハヤブサ



オオタカ



イヌワシ



※キルギス、インクル州で撮影

体 高: 470 – 570mm
 翼開帳: 970 – 1,260mm
 体 重: 500 – 900g

※狩猟には馴致しない

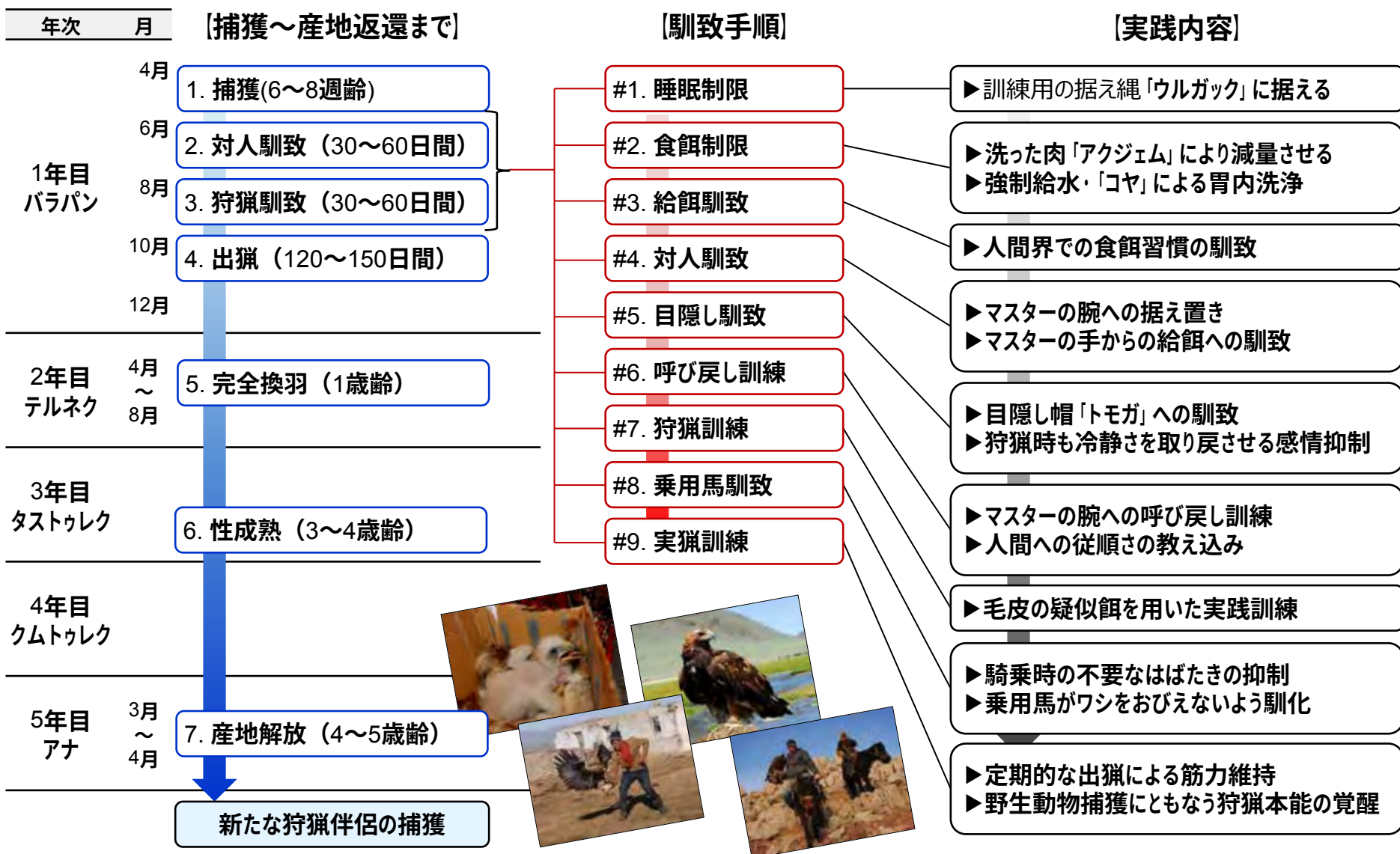
体 高: 460 – 630mm
 翼開帳: 890 – 1,220mm
 体 重: 600 – 1,200g

※狩猟には馴致しない

体 高: 660 – 900mm
 翼開帳: 1,800 – 2,340mm
 体 重: 5,000 – 7,000g

※メス個体のみを馴致

狩猟用イヌワシの馴致プロセス



#1. 睡眠制限

#2. 食餌制限



▲ ウルガックに据えられたワシ

#3. 給餌馴致

#4. 対人馴致

#5. 目隠し馴致



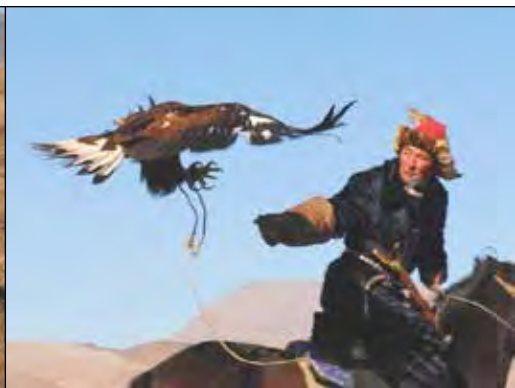
▲ 食餌、強制給水の風景

#6. 呼び戻し訓練

#7. 狩猟訓練

#8. 乗用馬馴致

#9. 実猟訓練



▲ 立位、疑似餌、騎乗誘致の訓練風景

① 崖上の営巣地点



② イヌワシの巣



③ イヌワシの巣内の調査



④ 捕えられた約10日齢のヒナワシ



① 罾の設置に適した山肌



② 罾の設置



③ 罾の設置方法



④ 捕えられた5-7歳齢のメスワシ



狩猟用イヌワシの給餌適正動物

高頻度
↑
(給餌適正度)
↓
低頻度



1. ウサギ



2. ヒツジ



3. キツネ



4. 内臓



5. ウシ



6. マーモット



7. 川魚



8. ウマ



9. イヌ



10. ヤギ



11. ラクダ



12. ネズミ



モウコヤマネコ

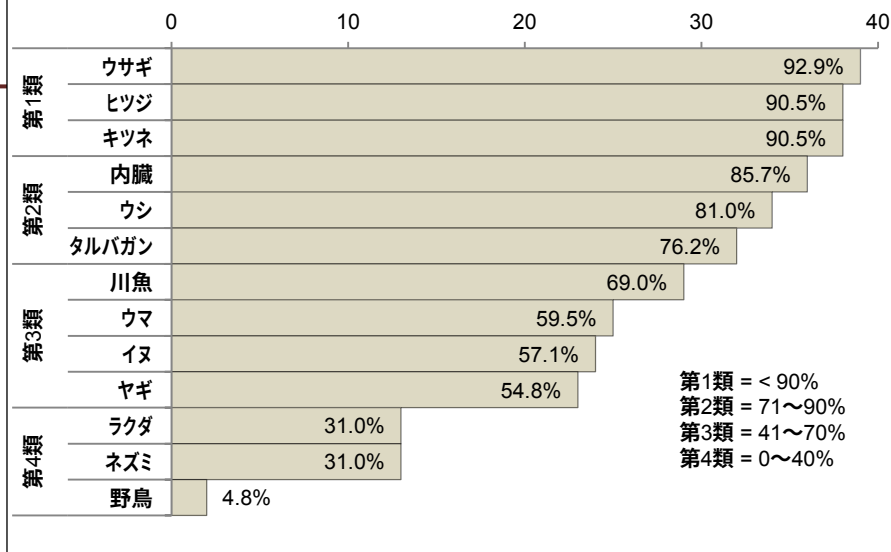


野鳥

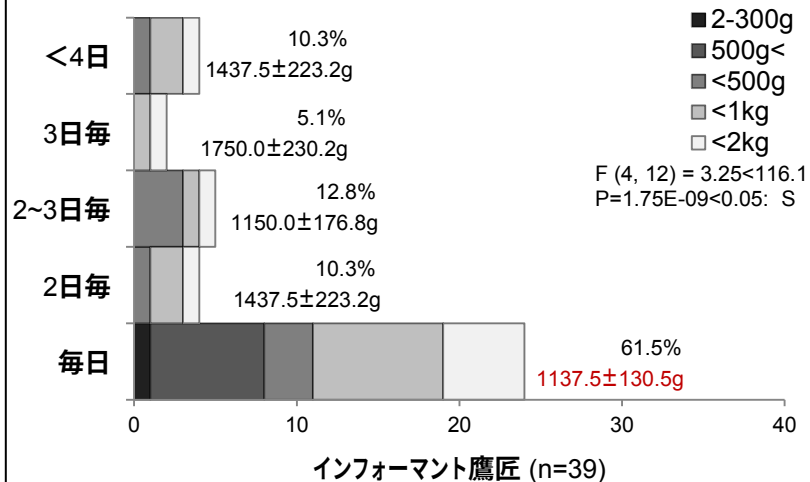


オオカミ

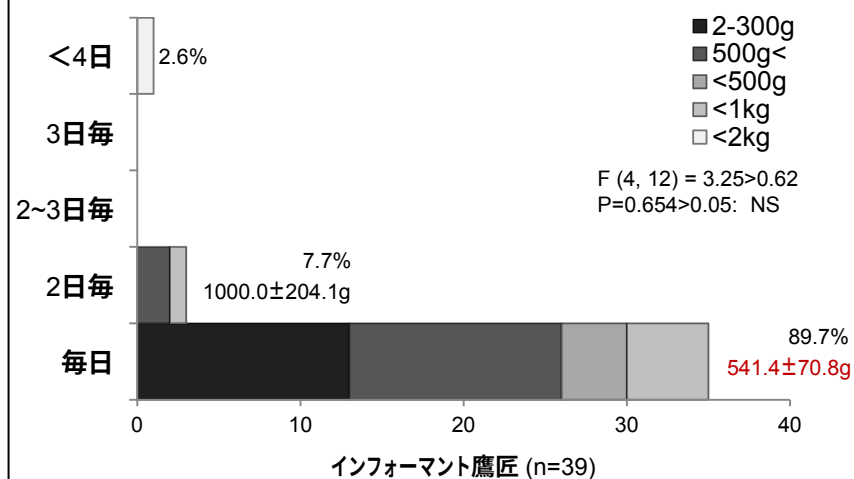
鷲使いによる動物別の給餌適正度 (n=42)



夏季（トゥレク時）の給餌頻度／分量(g)



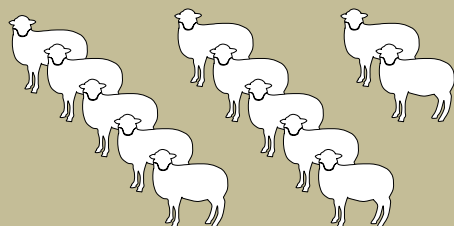
冬季（カイルー時）の給餌頻度／分量(g)



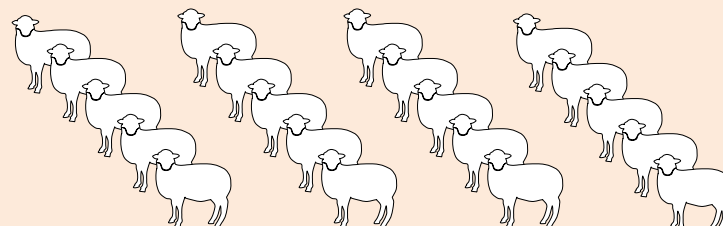
イヌワシの年間平均食肉消費量は・・・

最小 90.0 (kg) ← 平均 241.3±18.3 (kg) → 最大 440.0 (kg)

イヌワシ1羽=9.6～12.0頭分



牧夫1世帯=15～20頭分

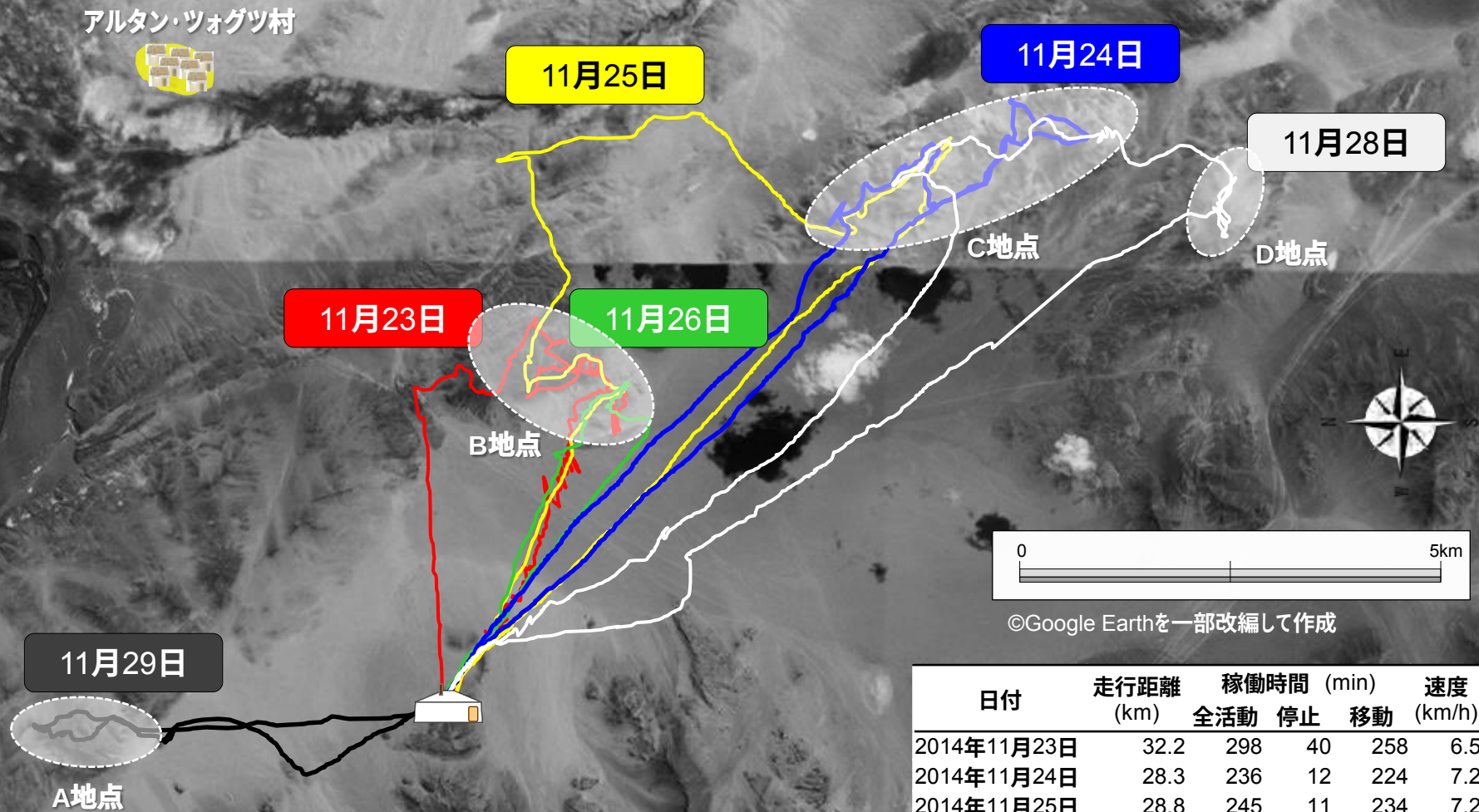


枝肉歩留り
=20~25kg換算

騎馬鷹狩の風景



騎馬鷹狩の実践①（A. ツォグツでの狩猟ルート）



日付	走行距離 (km)	稼働時間 (min)			速度 (km/h)
		全活動	停止	移動	
2014年11月23日	32.2	298	40	258	6.5
2014年11月24日	28.3	236	12	224	7.2
2014年11月25日	28.8	245	11	234	7.2
2014年11月26日	19.7	215	20	195	7.2
2014年11月28日	35.2	260	21	239	8.1
2014年11月29日	14.7	160	21	139	5.3

騎馬鷹狩の実践②（アグジャル山地の狩猟ルート）

ハンティング・モビリティ

最大累積標高差(HP-A~I): ca. 450 m±

累積走行距離(km): ca. 20 km±

最大遠隔地点(HP-I): ca. 5.7 km

最大狩猟稼働時間(h): ca. 6.5 hours

ハンティング・ポイント

HP-A	1,815 m
HP-B	1,796 m
HP-C	2,036 m
HP-D	1,922 m
HP-E	1,851 m
HP-F	1,791 m
HP-G	2,118 m
HP-H	1,925 m
HP-I	1,938 m

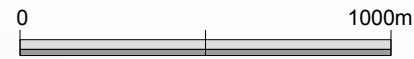
ウランフス村

(4.42km)

ホブド河

(4.95km)

下宿



©Google Earthを一部改編して作成

サグサイ村

騎馬鷹狩の実践①（アグジャル山地の狩猟地点）

B Point



A Point



H Point



I Point



騎馬鷹狩の実践③ ハンティング・ログ

狩猟稼働日 (n=10)	狩猟時間 (実働時間)	鷹匠	勢子	遭遇回数	遭遇地点	捕獲数	放鳥回数
2011. 11/ 26 (Sat)	10:00～13:00 (2.5 h)	S-22	なし	1(ウサギ)			1回
11/ 27 (Sun)	11:00～16:30 (4.0 h)	S-22 & S-11	S-21	1	HP-F		S-11: 1回 S-22: 1回
11/ 28 (Mon)	10:30～17:30 (6.5 h)	S-22	S-11				2回
12/ 1 (Thu)	10:30～17:00 (6.0 h)	S-22	S-11	1	HP-E	1 (HP-E)	1回
12/ 3 (Sat)	10:30～17:00 (6.0 h)	S-22 & S-11	S-21				
12/ 4 (Sun)	11:00～17:00 (5.5 h)	S-22	S-21	2	HP-I		3回
2012. 1/ 17 (Mon)	11:30～15:30 (2.5 h)	S-22	なし	3	HP-F		4回
1/ 18 (Tue)	11:30～16:30 (3.5 h)	S-22 & S-11	S-21				
1/ 20 (Fri)	12:00～15:30 (3.0 h)	S-22 & S-11	S-21	1	HP-H		S-11: 2回 S-22: 1回
1/ 21 (Sat)	11:30～13:30 (1.5 h)	S-22	なし				

捕獲数キツネ1匹





アカギツネ (*Vulpes vulpes*)



※狩猟訓練時の様子



※狩猟訓練時の様子



オオカミ (*Canis lupus*)



家畜ヤギ／ヒツジ



ワシミズク (*Bubo bubo*)



ビーバー (*Castor fiber bilulai*)



マヌルネコ (*Felis manul*)



ノウサギ (*Lepus Torai/ timidus*)



アイベックス (*Capra sibirica*)



アカシカ (*Cervus Eraphus L*)

毛皮と鷹匠装束



キツネの脚の毛皮のみで作る民族帽
“プシュパク・トマック”



モウコヤマネコの毛皮



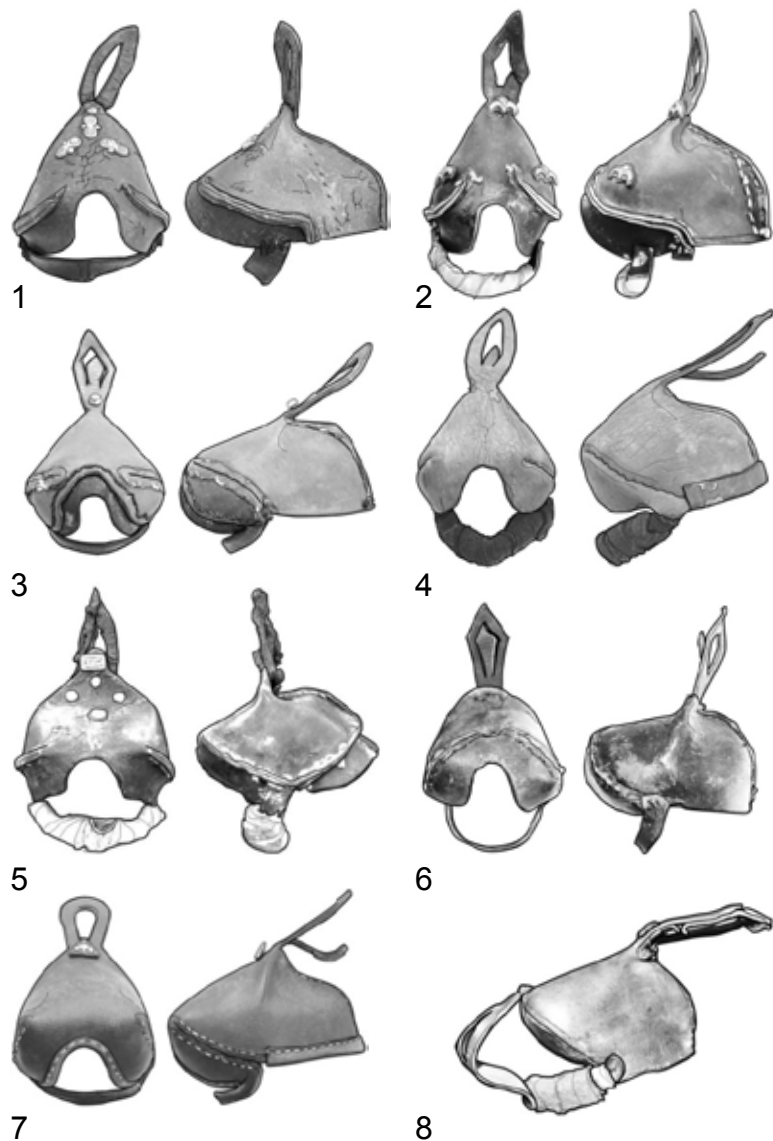
アイベックスの毛皮の外套



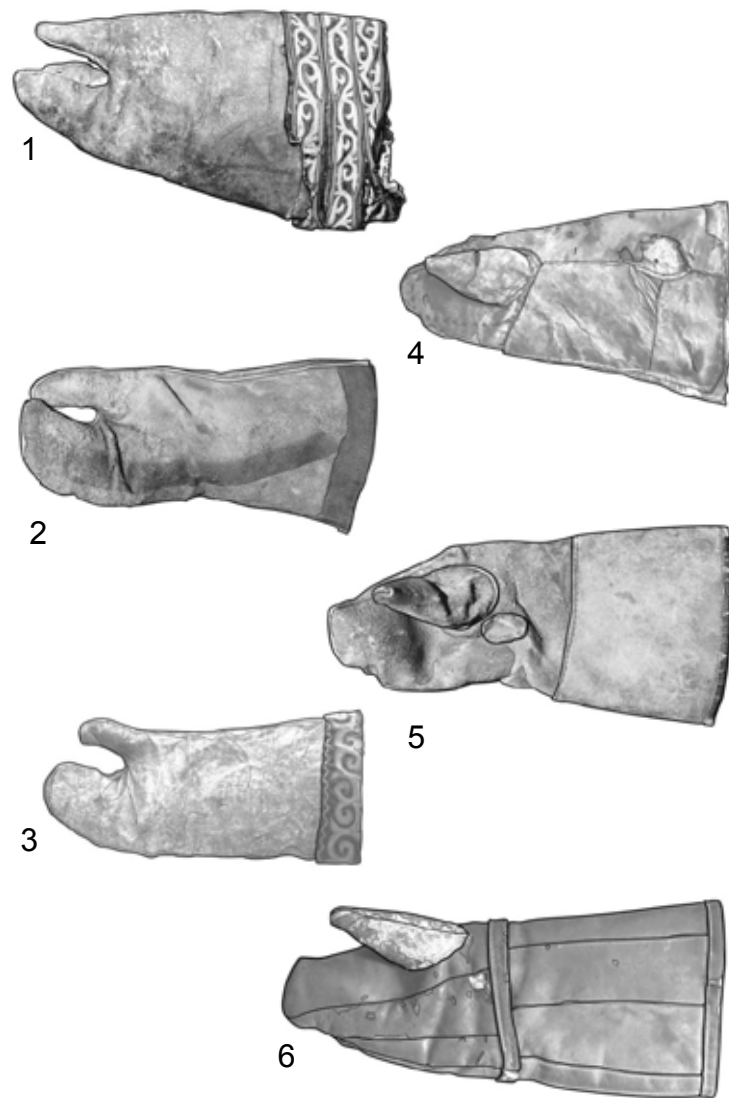
オオカミ5～6頭分の毛皮で作った外套



いろいろな鷹匠道具



目隠し帽（トモガ）



手袋（ピアライ）

いろいろな鷹匠道具

1



2



3



足緒（アヤク・バウ）

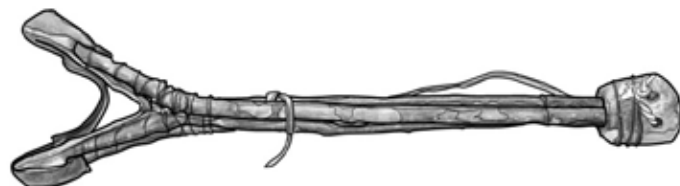
1



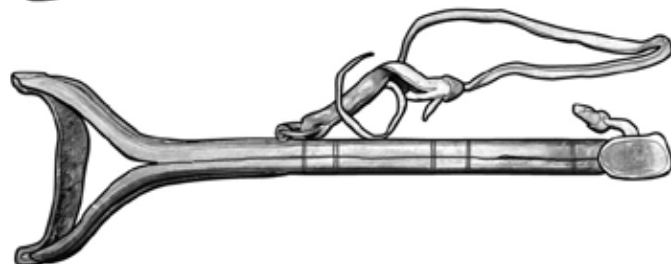
2



3



4



5



腕部固定具（バルダック）

いろいろな鷹匠道具



トウトウク(Түтік)



強制給水のようにす



コヤ(Қоя)



吐き出されたペレット



給餌器(Сапты аяқ)



嘴のトリミング



水に浸した肉



チャクル(Шақыру)



呼び戻し訓練



カトウル(Қатыр)



テーマ③

「ヒトと動物の調和遺産」に向けて



イヌワシ祭のオープニング・セレモニー

- ▶ ウルギー市（2000）とサグサイ村（2002）にて開催
- ▶ 2011年3月UNESCOによる無形文化祭典としての承認
- ▶ 盛装した鷲使い（50～60名）の参加
- ▶ 海外からの観光客誘致など（例年300名程度の参加者）



イヌワシ呼び戻しコンテスト



クズ・コアル（夫婦馬上競争）



盛装した鷲使い



コク・バル（馬上相撲）





R1. 文化遺産としての対外的表象

R2. 自画像形成のための対内的喚起

R3. 文化変容の加速・伝統の脱文脈化

R4. 観光化による地域住民の排他



急激な社会変化

1990年代の
社会不安

人口
流出

伝統の消滅
への危機感

少数民族
の自立

雇用の喪失

牧畜活動への回帰

民主化移行

鷹匠自身
による保護

カザフ・アイデンティティの復活を意図

イヌワシ祭の設立

ウルギーsince 2000 / サグサイsince 2002

イヌワシ祭の社会・文化的基盤の脆弱性

地方行政
による保護

伝統文化の急激な変容

- R1. 伝統的飼養方法の消失
- R2. 狩猟活動の停滞
- R3. 牧畜活動の放棄
- R4. イヌワシの違法取引の慢性化

民族表象とのせめぎ合い

- R1. 単なるイヌワシ保持者の増加
- R2. イヌワシ保持へのモチベーション
- R3. 観光化と訪問観光客の増加
- R4. 文化資源としてのイヌワシ祭の活用
- R5. 市民意識の向上

伝統の断絶!!

カザフ鷹狩文化の“消滅”

デモンストレーションと
しての形骸化!!

カザフ鷹狩文化の“脱文脈化”

(矛盾)

(矛盾)

伝統的鷹狩
文化の再発
見／再評価

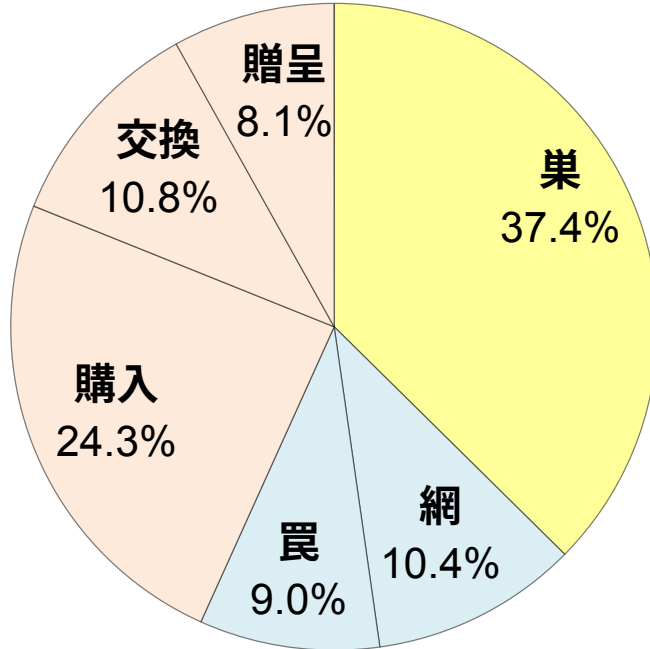
カザフ・アイ
デンティティの
継承・確立

文化変容

騎馬鷹狩文
化の消失へ
の懸念

1. イヌワシの入手方法

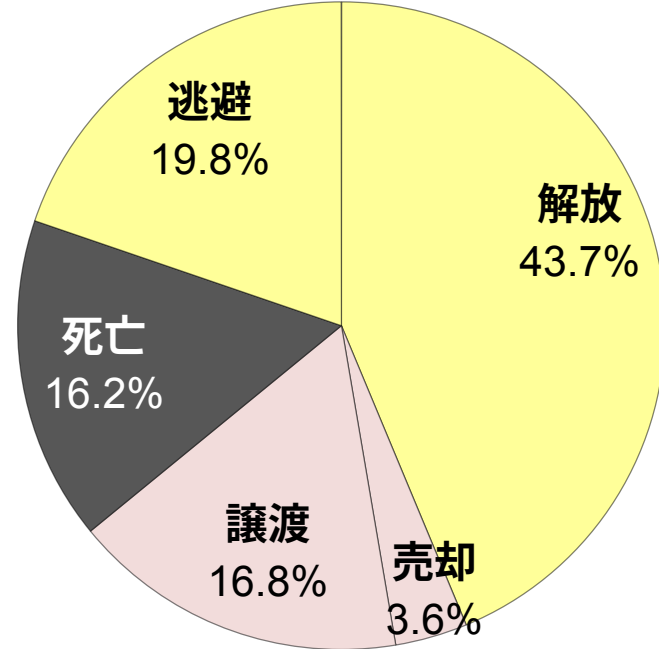
(飼養履歴 n=222個体)



巣から捕えたヒナワシが37.4%
⇒イヌワシ個体数圧迫への懸念

2. イヌワシとの離別方法

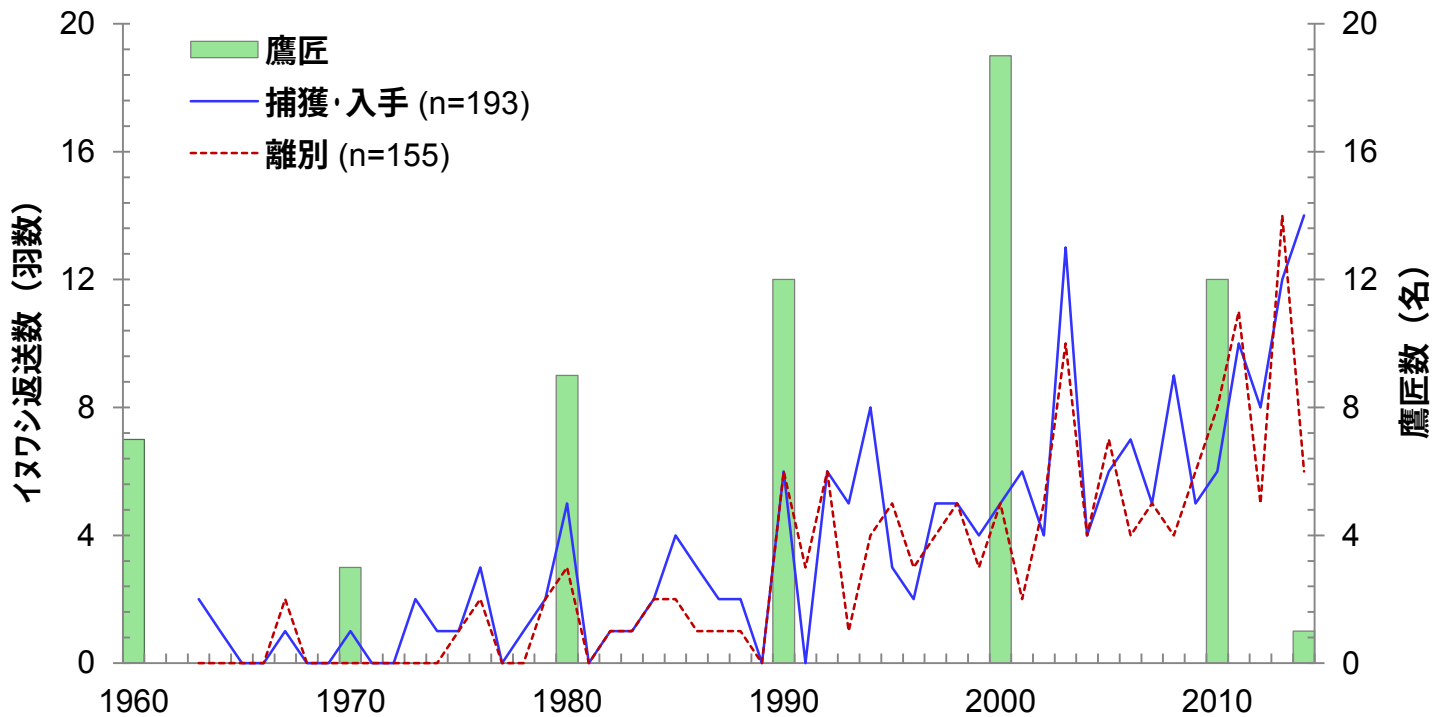
(飼養履歴 n=167個体)



産地返還（解放）が減少
⇒技術不足による「逃避」がくしくも自然回帰率を押し上げている

1. イヌワシ入手／離別個体数の推移

(1963~2014年)



鷹狩参与者の減少にもかかわらず、イヌワシ捕獲羽数は増加傾向にある
⇒ 今後の生物資源圧迫への影響の懸念

年月	騎馬鷹狩猟		
	繁閑期	活動	鷹取
4月	(トウレク期) 鷹狩閑散期	換羽開始 ↓ (十分な給餌と増量)	巢の搜索
5月		↓	↓
6月		↓ (冷温下での健康管理)	ヒナ捕獲時期
7月		↓	↓
8月		↓	若鳥の捕獲時期
9月	(カイル期) 鷹狩繁忙期	換羽の完了 食餌制限の開始 (～翌3月)	↓
10月		訓練の開始	成鳥の捕獲時期
11月		↓	↓
12月		↓	↓
1月		↓	↓
2月		↓	↓
3月		↓	↓
4月		換羽開始	↓

年月	遊動性牧畜活動		
	繁閑期	季節移動	牧畜活動
4月	牧畜繁忙期		幼畜の出生
5月			
6月		夏牧場へ移動	
7月			ウシの繁殖適期 ↓ 乗用馬の肥育 ↓ オトルや分離放牧 ↓ 干草用の草刈り ↓ 家畜管理コストの低減
8月			
9月	牧畜閑散期	冬牧場へ移動 (秋牧場へ移動)	
10月		(冬牧場へ移動完了)	
11月			ヤギ・ヒツジの繁殖期 ↓ 家畜の一斉屠殺 (ソグム) ↓
12月			毛皮製品の製作など 祝い事等での贈呈品交換
1月			
2月		春牧場へ移動	
3月		牧畜活動への専念	幼畜の出産期 ↓
4月			

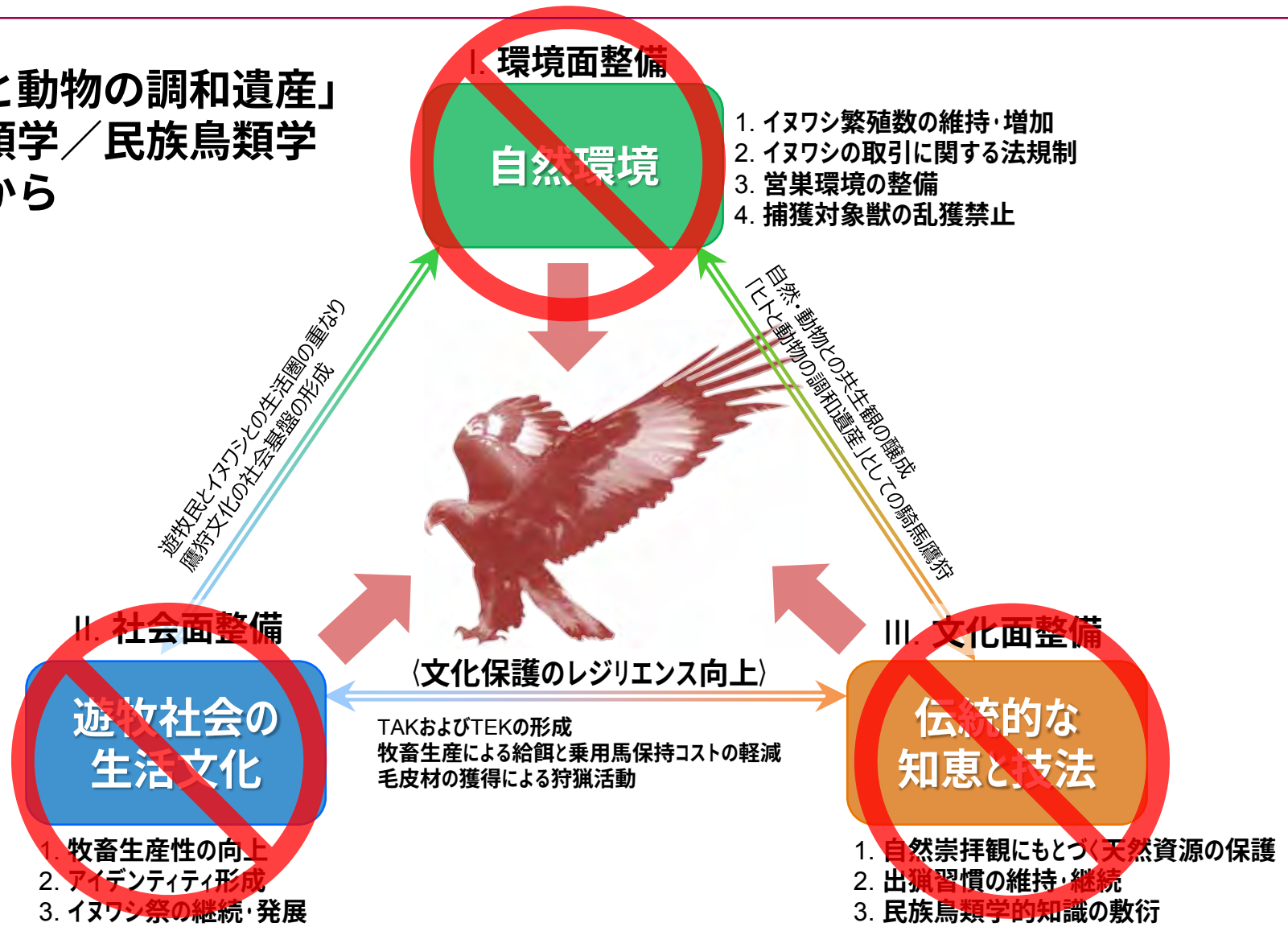
- ▶ イヌワシへの日々の給餌
- ▶ 乗用馬維持の負担軽減
- ▶ 牧閑期の毛皮取得

**相互生産性
互惠的生業**

- ▶ 毛皮獲得機会の提供
- ▶ 良好な対人・社会関係の維持
- ▶ 猟閑期の牧畜活動への専念

まとめ

「ヒトと動物の調和遺産」 生態人類学／民族鳥類学 の立場から



謝辞 Acknowledgement

本調査研究は(財)高梨学術奨励基金「平成23/ 24年度 研究助成」およびカッセル大学エコロジー農学部 Watercope Projectでの研究計画に基づき行いました。同財団の高梨誠三郎会長をはじめ、(株)丸仁ホールディングスの関係者の皆様、また同大学Dr. Andreas Buerkert教授とDr. Eva Schlecht教授に深く御礼申し上げます。

ドイツで出版の拙著もamazon.com等で販売中です！



ご清聴ありがとうございました!!
(Thanks!!)



おまけ

も笑顔の

フィールドワーク鬼十訓抄

- 壺. いつも笑顔でいよう
- 貳. 読むよりも考え、それよりも感じよう
- 参. 現地語を学ぼう
- 肆. 毎日の日誌を欠かさずつけよう
- 伍. 女性と子どもを味方につけよう
- 陸. 現地の食べ物はとりあえず口に放り込んでみよう
- 漆. きちんとした服装と装備を身につけよう
- 捌. 日焼けはしないようにしよう
- 玖. 両手は必ず空けておこう
- 拾. 必ず生きて帰ろう



1. 捕獲

仮説1. 「兄弟殺し (Siblicide)」からの回避

- ▶ ヒナの捕獲による生存率向上

2. 日々の給餌

仮説2. 食餌可能範囲の拡張

- ▶ 自然界では捕食しない動物・魚・乾燥肉などの給餌

仮説3. 自然での生存能力の向上

- ▶ 食餌可能範囲の拡張による生存能力の向上.

3. 狩猟訓練

仮説4. 狩猟技術の開発・向上

- ▶ 自然界では捕食しないキツネなどへの狩猟馴致
- ▶ 狩猟対象獣の増加

仮説5. 人的介入への過敏さ軽減

- ▶ 個体の生活域内での人間との共生

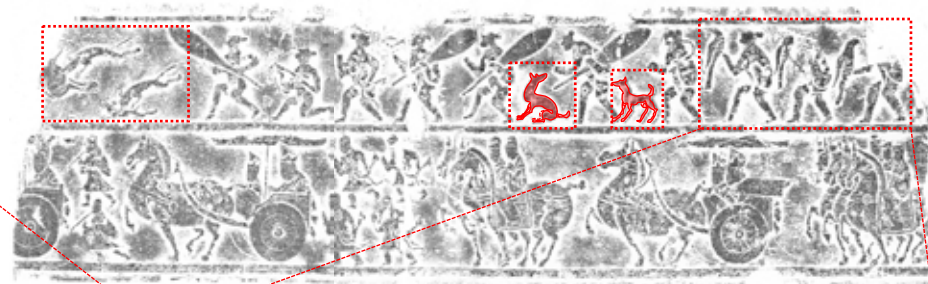
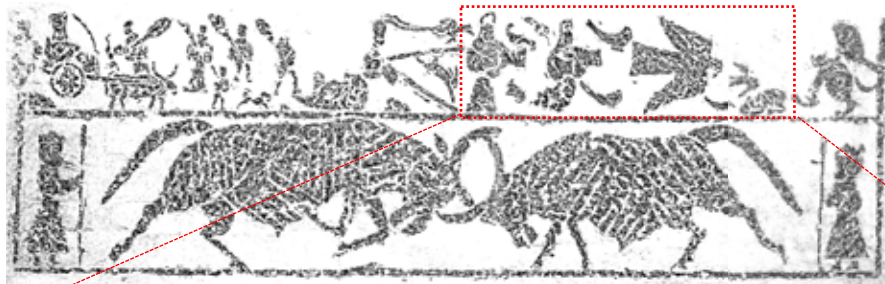
4. 放鳥の風習

仮説6. イヌワシ個体数増加への貢献

- ▶ 各種の能力開発（食餌範囲・狩猟法力・捕獲対象獣）による次世代育成能力の向上

捕獲・放鳥の習慣を通じた
鷲使いとイヌワシの「潜在的共生関係」

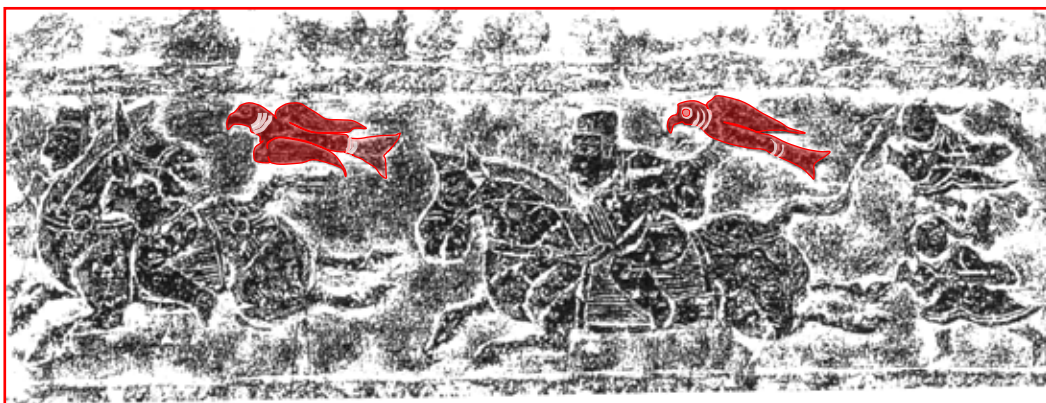
古代アジアの鷹狩図案④ 中国：後漢時代



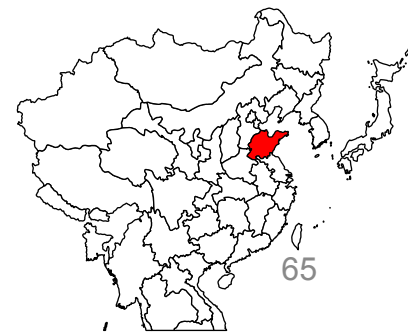
▲「狩獵，公牛抵鬥畫像」（山東：89-189年頃）



▲「狩獵，車騎出行畫像」（山東：89-189年頃）



▲「出行，獻俘，樂舞畫像」（山東：89-189年頃）



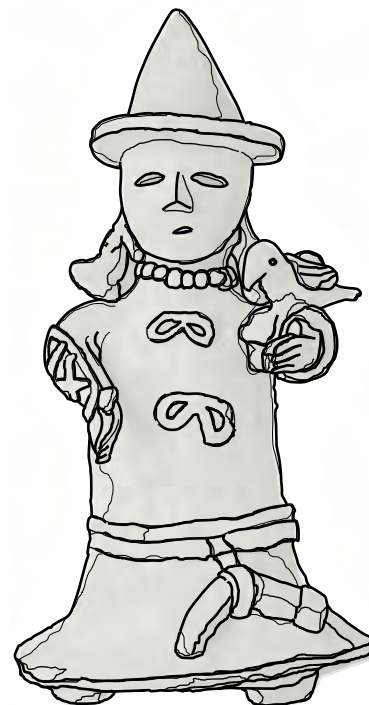
古代アジアの鷹狩図案⑤ 日本：古墳時代



▲ オクマン山古墳
(群馬：6世紀頃)



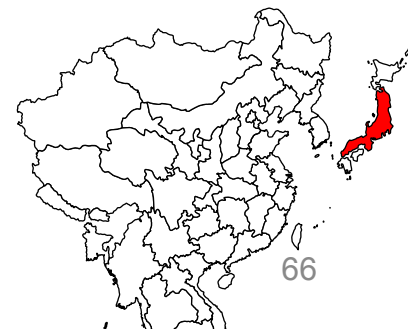
▲ 鷹匠埴輪
(群馬：6世紀頃)



▲ 鷹匠埴輪
(群馬：6世紀頃)



▲ 鷹匠埴輪の左腕部
(奈良：6世紀頃)



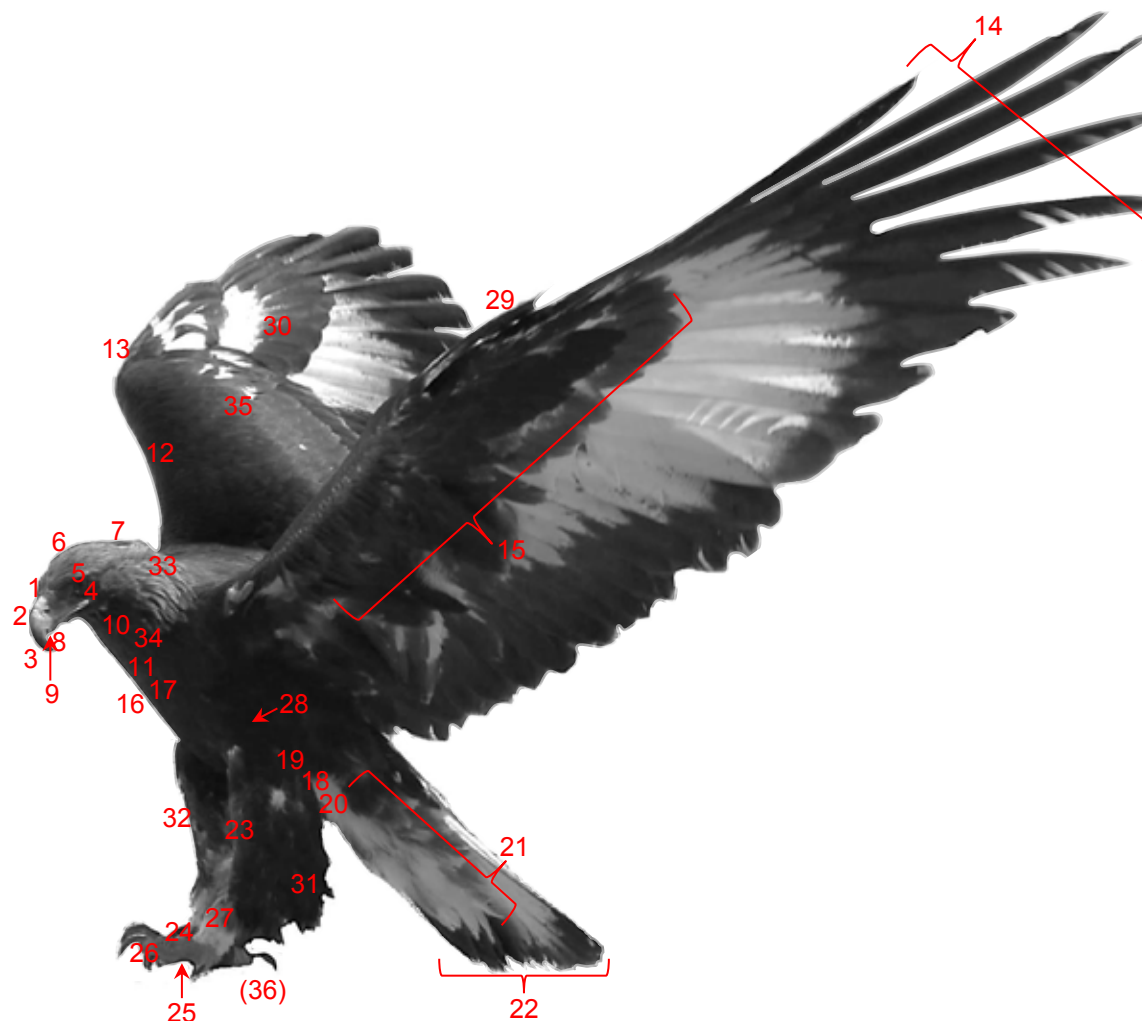
狩猟用イヌワシの年齢別呼称

満年 齢	数え 年	カザフ式呼称 相馬*	キルギス式呼称	日本式呼称 (中世・近世)	イギリス式呼称 (中世・近世)
0	1	バラパン	バラパン	(#1~#5)	Soarage
1	2	テルネック	ボズム	ひととや	Enterview
2	3	タシュ・トゥレク	ウム・トゥリュク	片 (かた) かえり	White Hawk
3	4	クム・トゥレク	タシュ・トゥリュク	諸 (もろ) かえり	A Hawk of the 1 st Coat
4	5	アナ	コム・トゥリュク	鳥屋 (とや) かえり	(以下算用数字を+)
5	6	カナ	バールチン	(+以後おなじ)	1. Eyasse (Eyas)
6	7	サナ	ビル・バールチン	#1. 野ざれ	2. Brancher
7	8	ユー・トゥレク	(以下算用数字を+)	#2. 巣まわり	3. Ramage Hawk
8	9	スー・トゥレク		#3. あがけ	4. Soar Hawk
9	10	アールチン		#4. 山がえり	5. Carvist (Murzarolt)
10	11	バールチン		#5. 佐保姫かえり	6. Enter Mew
11	12				

*ダイン地方での呼称を参照



イヌワシの身体部位の現地語呼称



no	現地語名称	解剖学的名称
1	Көк Болат	Cere
2	Құсмұрын	Nare (Nostrils)
3	Ақ тұмсық	Beak
4	Шегір көз	Eye
5	Қабак	Eyelid / Supraorbital ridge
6	Төбе	Parietal / Vertex
7	Шүйде	Back of Head (nape)
8	Кемиегі	Lower Bill
9	Қияғы	Tongue (lower bill gonys?)
10	Жемсау (бөтеге)	Goiter
11	Омырау	Breast
12	Кермеиық	Brachium/ Biceps?
13	Жебе	Third Digit
14	Құйрықтар	Primary Remiges
15	Сан	Covert Feather
16	Шеңгел	Sternum
17	Жембасар	Crop
18	Сығым	Vent
19	Тегеурін	Synsacrum
20	Табан	Down or coverts under tail
21	Сырт (бүкіл сырт жағы)	white part of contour feather
22	Шалғайы	Tail Wings?
23	Топшы	Thigh
24	Шалғы	Tarsus?
25	Серпер	Sole of Foot
26	Анғар	Crotch
27	Шонты	Tarsus/ Leg (Arm)?
28	Бауыр	Liver
29	Саңырауқұлақ	Alula
30	Майтүбіт	Patagium/ Wing
31	Көбе құйрық	Leg Feather
32	Қауырсындар	mantle?
33	Балақ жүн	Feather of Occiput
34	Тұрқы (Ұзын)	Neck Feather Covert
35	Жотасы	Outer Side of Wings
36	Мелжем (Жұдырық)	Fist

いろいろな鷹匠道具



① 目隠し帽（トモガ）



給餌器



② 手袋（ピアライ）



疑似餌



③ 腕部固定具（バルダック）



④ 足緒（アヤク・パウ）



餌袋